

私のほっとな時間

きらっとLIKE WORK

KAWACHINAGANO CITY

河内長野で輝いている人に聞きました

VOLUME
14

木根館でオカンテレの製作・普及に取り組む
印南 茂さん



好きなことを続けていたら
つながりが広がった

ほっと
大切にしているもの
POINT

定年退職したことをきっかけに、昔から憧れていたフィドル(バイオリン)を始めた印南さん。ものづくりが好きだった経験と音楽への思いが結びつき、現在はフィンランドの民族楽器「カンテレ」の製作・普及に取り組んでいます。活動の始まりは、2015年にラブリーホールで開催された世界民族音楽祭のワークショップに参加したことでした。フィドル教室の先生主導で行っていた「カンテレ」製作のワークショップを翌年以降も継続するために、印南さんがその活動を引き継ぐことに。その後、口コミで参加者の輪が広がり、これまでに200台以上のオカンテレ(奥河内カンテレから命名)を製作しています。「作ることが目的ではなく、音楽を楽しむ仲間が増えてほしい」と話す印南さん。製作指導はボランティアで行い、材料

費程度の負担で誰でも参加できるように工夫しています。一方で、「完成後に演奏を学べる場が市内に少ないので、教室があればより多くの人に楽しんでもらえるはず。また、活動の拠点である木根館は、気軽に木工ができる貴重な場所。もっとみなさんに利用してほしいです」と今後への思いを語ります。今年5月にフィンランド・タンペレ市の音楽院の人々が来日した際には、日本カンテレ友の会から印南さん製作の「オカンテレ」を寄贈。自分のカンテレが認められたことがうれしかったと話します。「私は特別な人間ではなく、どこにでもいるおじいさん。でも、好きなことを続けていたら、人とのつながりがどんどん広がりました」定年後に踏み出した小さな一歩が、多くの人へ音楽とものづくりの楽しさを届けています。



写真は、おおさか河内材を使って作ったオカンテレ。複数の木材やピアノ線を組み合わせて作られています。毎月、大阪市内で行っているカンテレのセッション会に集まる人たちの9割はオカンテレを使用。現在もカンテレに興味のある多くの人々が府内だけでなく奈良や京都など遠方からも印南さんのもとを訪れています。

